

紀伊國名所圖云

六之卷下
那賀郡





紀伊國々所圖會卷之六下目錄

九頭神社

天徳宮

子日大権現

一茶の松

御本夷林社

藏王権現社

今鳥石

薬師寺

光恩寺

藏王権現

岡山廟

大橋神社

金谷藏王権現

藏王権現

勝手林

明良觀音

秤石

比前王子社

炮術家

日延藏王権現

田村麻呂毒蛇退治

山王神社

田村軍塚

吉田山王

栄福寺

圓柏樹

捨岩

大市姫神社

大和神社

八王子社

佐伯神社

女香房墓

正福寺

根來山

荒田神社

御船神社

住寺池

信貴石

白山大権現

善提峠

甘人堂不動

實相院

愛宕権現

樂静院

慈光院

解財天社

地藏堂

鼓谷

阿伽井

正智院

正智院

江波院

縮荷神社



十輪院跡
密嚴院
小什坊跡

布廟
利益院

大傳法院
尊勝佛頂
金剛法壇

光明會道場
虛空藏
護摩堂

荒神社
龍王社

三部神社
伊太祈曾社

正等院
寶幢院

蓮花院
車留石

蓮生院
寶積院

放光院
福壽院

杉の坊
瑞巖院

愛染院
寶生院

大門跡
金佛不動

供鑽不動尊
來迎ヶ嶽
德藏院

觀音堂
一乘山

大塔
弘法大師堂

骨堂
九社神社

圓明寺
御影堂

經藏
文珠堂

智積院跡
律宗院

中性院跡
般若院

兩儀院
理性院

地藏院
灌雪院

金剛院
靜然院

徳ヶ院
大慈院

御船山
御船神社

九頭神社

三毛村にあり相無く女羽の村にあり九月午の巳ちり
未の卯山宿府の生を村にあり九月午の巳ちり
未の卯山宿府の生を村にあり九月午の巳ちり

御池山法界院

御池山あり法界院あり
御池山あり法界院あり
御池山あり法界院あり

御本表神社

御池の西にあり御本表あり
御池の西にあり御本表あり
御池の西にあり御本表あり

當社八社

當社八社あり天皇東征しなまふ後
當社八社あり天皇東征しなまふ後
當社八社あり天皇東征しなまふ後

原

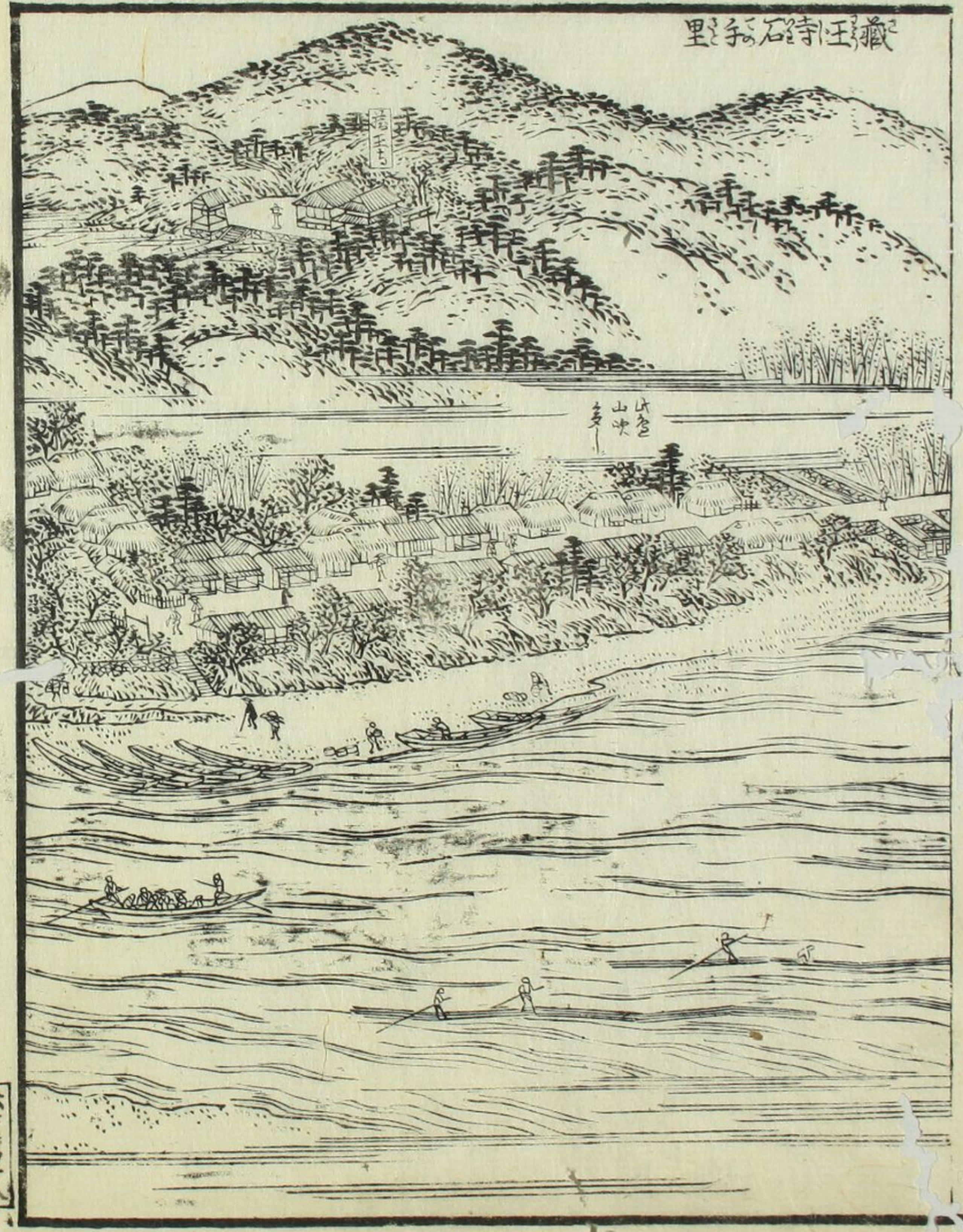
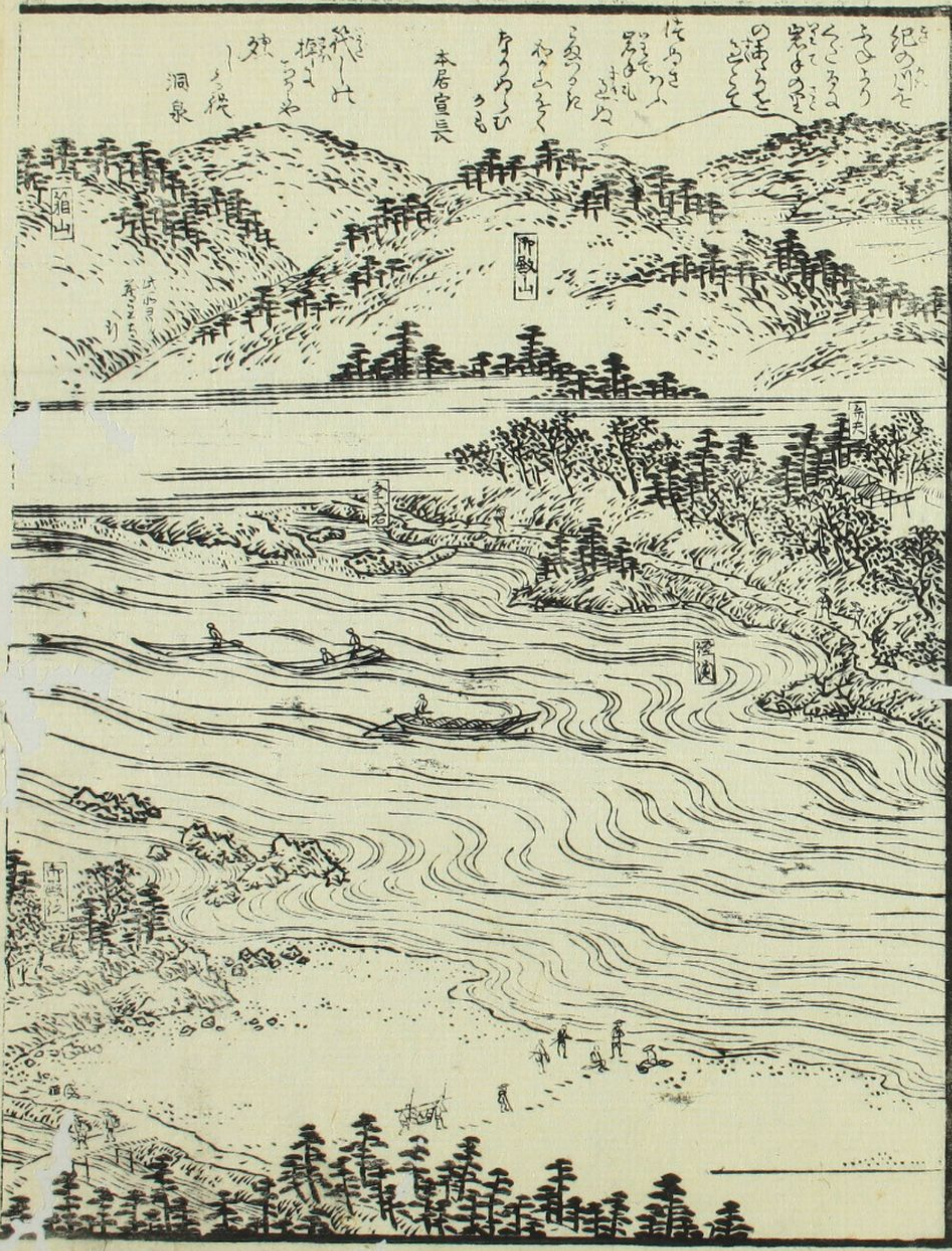
原に都立あり天皇東征しなまふ後
原に都立あり天皇東征しなまふ後
原に都立あり天皇東征しなまふ後

置帆

置帆命命彦狭志命世二命の孫
置帆命命彦狭志命世二命の孫
置帆命命彦狭志命世二命の孫

齋部

齋部の居る處を齋部と云ふ
齋部の居る處を齋部と云ふ
齋部の居る處を齋部と云ふ



山
 山
 山

宮堰水祭

竹
梁光敷陰昔
孰菴投疎千
尺碧琅玕雲
梢漏月飾金
散露葉含風
翠玉寒嶺谷
截成鳴鳳管
渭濱裁取釣
魚竿王猷一
去無知己徒
使此君賸曲
欄
龍公美

志明



藏王権現辻

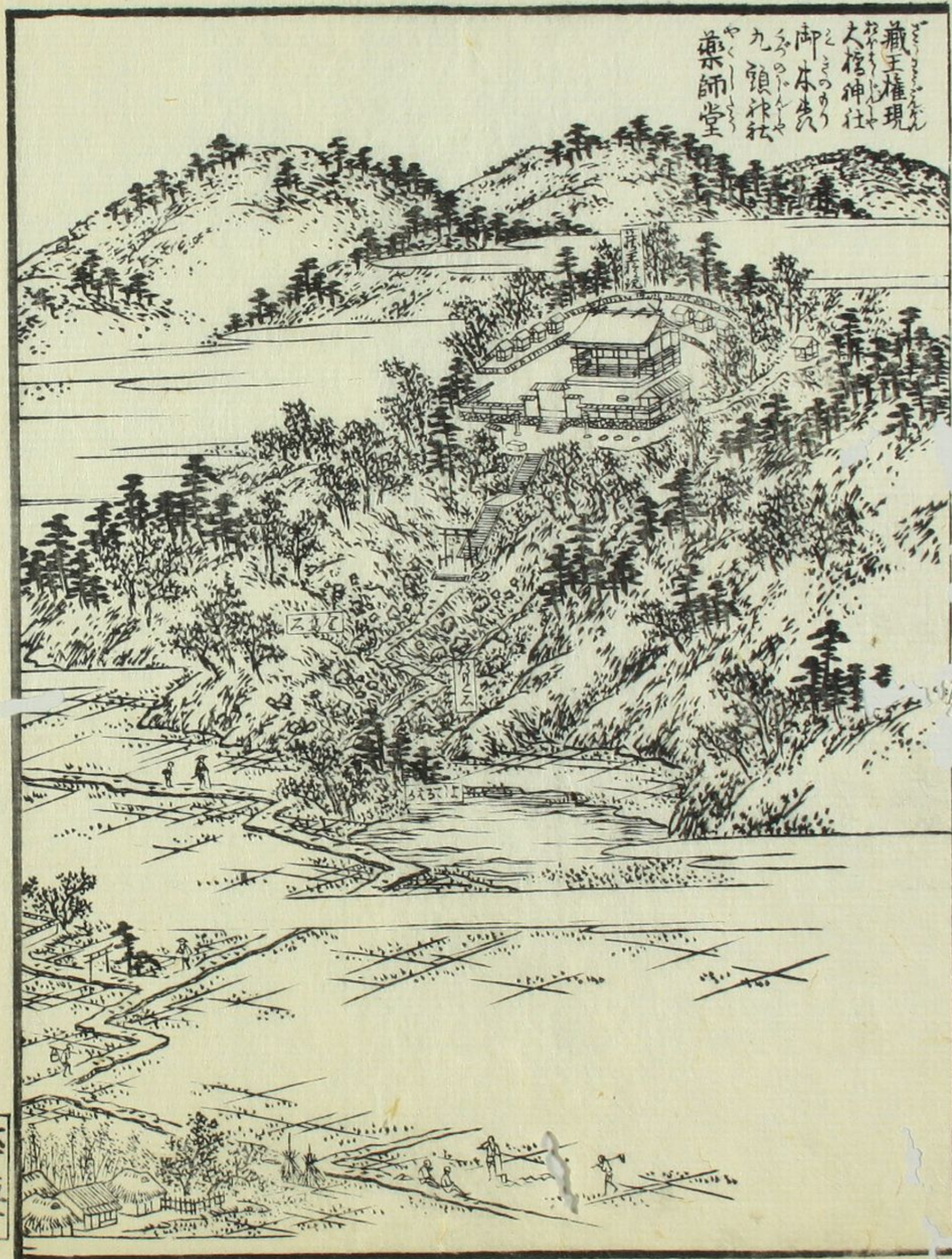
小倉の村南三町山の半後にある
藏王権現の生土権現の九月十二日

金鳥石

後の山に
の道は石の村

とらふく其地村と并祭のたむつちありあつて
郡井辺村と郷里村とのあつても
地至富令ねむい手置帆員今彦杖を伸の子孫のたむつち
とらふく其地村と并祭のたむつちありあつて
郡井辺村と郷里村とのあつても
地至富令ねむい手置帆員今彦杖を伸の子孫のたむつち

杖石
山影の民衆の手に
一歳のとらふく其地村と并祭のたむつちありあつて
郡井辺村と郷里村とのあつても
地至富令ねむい手置帆員今彦杖を伸の子孫のたむつち



渡らるるを寛永三年里老集會して再建に由るの形
勝とて山あり川の流るるに後六翠雲あり其いえ
奇名惟石山巔のありて鳥の林にあり寂莫するは其なり

大橋神社 日勝寺の村にあり 紀伊 波止土神社

懐岳山二清院光恩寺

山名 西流 七徳山 山頂にあり

本尊 阿彌陀佛

岡山信譽上人の像

長二尺二寸

地藏堂

本尊の西にあり

鎮守

皇太后

曼多羅堂

岡山の山

骨堂

後橋

林泉

唯の山

唯の山

夫のてんてん年間信譽上人の困るに其俗
姓のこの国なるの出来し〜四〇〇〜父母の遺孤子となり
幼少より教習し〜併して志願あり〜はより十一歳にて
日圓大指の事なり〜まゝの如く上人ははつと十歳にて

美奈と別て武州川越蓮華寺の圓峯上人のゆゑに親
学修練せしむるに師没するより江府坊と寺中興教習
圓師の徒弟ありて法宗秘藏を授け侍送せしまひ又
師席を辞し〜勢州山田原菩提寺に修成し〜其後日取
源後寺九卷上人より戒名を授け〜世傳〜田原寺の
丈より〜田原山推成〜桑原〜下向の如く名州
即宮御美徳寺に修成たまは其後諸国を巡遊の志し
あり〜大和の如くおもしろくは日取の如く〜其の如く
かゝる事〜速く〜其の如く〜其の如く〜其の如く
あり見たまはるる如くあり〜其の如く〜其の如く〜其の如く
備ある事余りあり〜其の如く〜其の如く〜其の如く
すゝめり上人念仏を勤め戒を弘め他力本願の如く教を
いより修め日取の如く〜其の如く〜其の如く〜其の如く

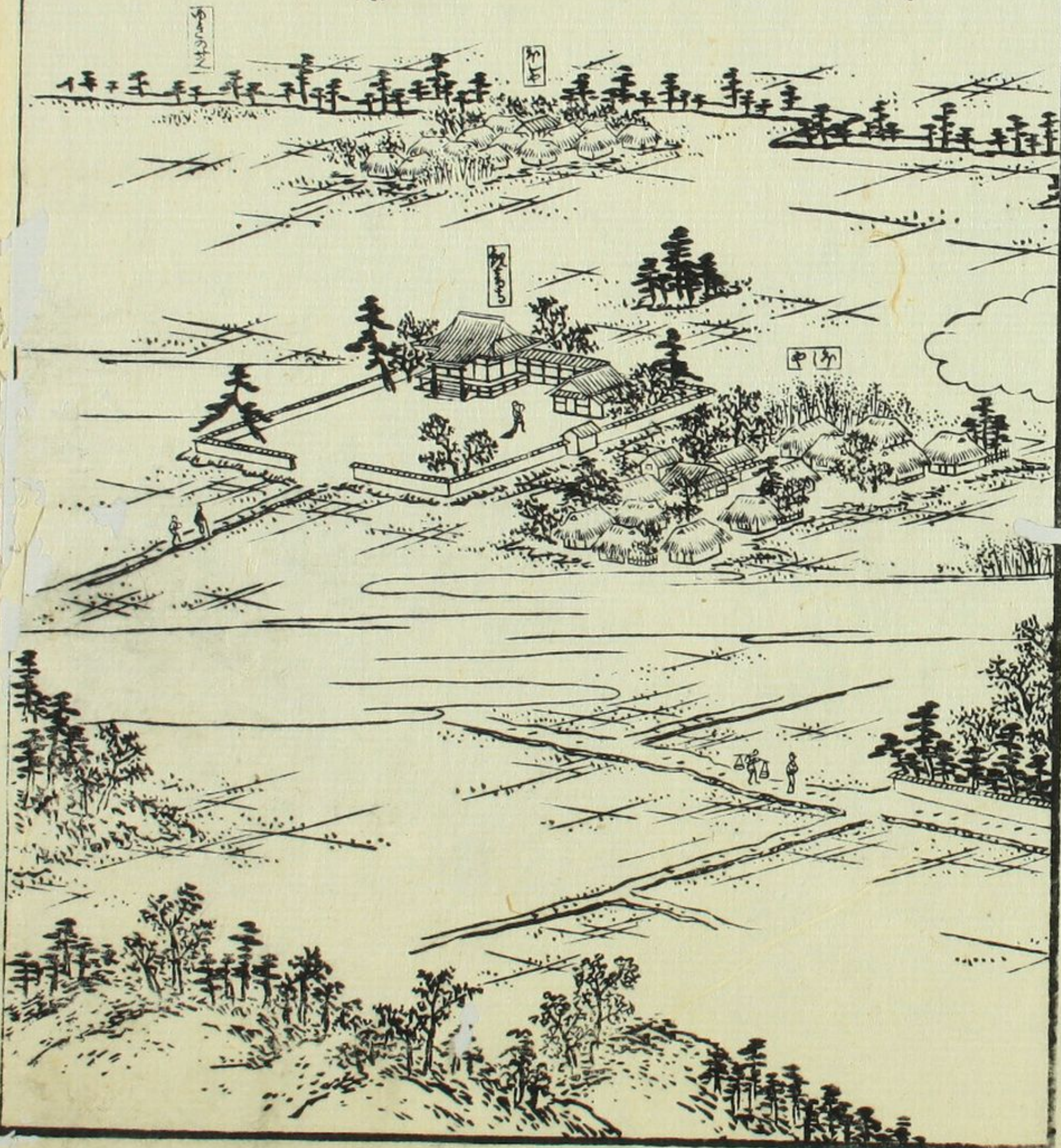
光恩寺
吐前王子

浄土本朝高僧傳曰
小倉光恩寺信譽上人傳
釋信譽子惠傳一名ハ
秃翁道眼明也常ニ
泥視廣繼之繞纏
於世縁遠離浮雲
之榮耀嘗遊北紀
州小倉締茅今之
光恩寺是也性能
詠和歌華晨月夕
以發於思風心頭
無事終常念寬
永十二年二月日
十念拾報



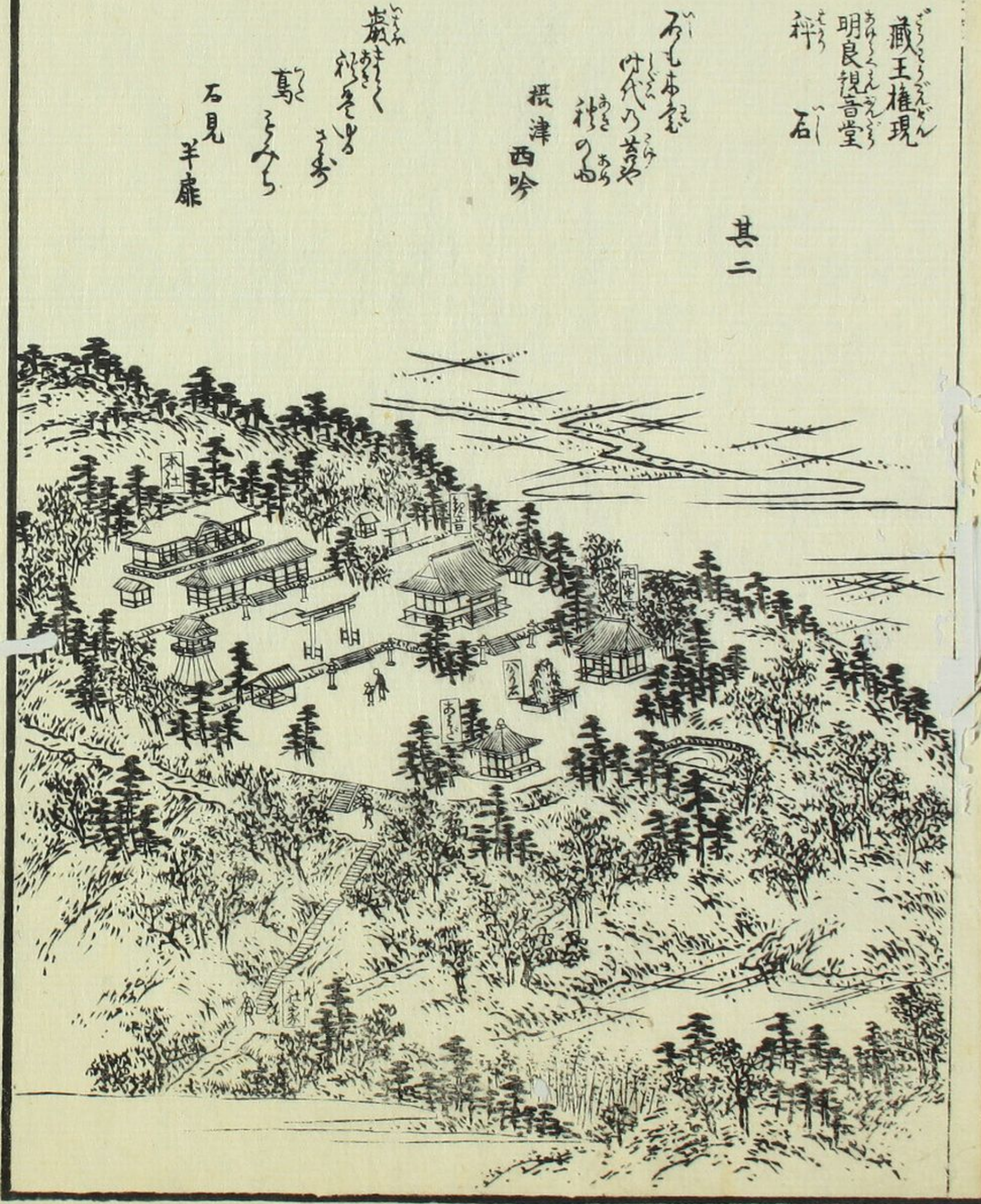
蓮池也
長寺
土入
秋

泉山の
扇
橋仙



藏王権現
明良観音堂
秤石

其二



石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻
石見 羊麻

津田仁某とあるの心致しき修りつをきき建し
 止りてわろむぬの小山石集あまぶくつ後と三郡修はて
 内陣の地中に埋お蔵戒の道場と日十九年四月廿より
 常の念佛とてわらるるおに七ヶ年の間勤行しなまらそ
 長崎の如く上野を郡於川清り寺の後で中興し
 運りて改修運りて護りお別字を郡滝崎寺日
 女多敷新念を再興し古きを否方ち由麻護念院も
 志く住し夫より後別廣考先翁寺相崎信光と
 草創し石川濱田虎翁寺銀心石編ら公再興し雪川
 松江の信樂を公創し
 日圓誓願寺に修しまき伯州米麓信をら公を下の徳川
 に修しし後女史ニテ寺と建し久し
 まき因幡国取守信樂寺と圓巻し久遠歴十二より

數四十九歳（一）の頃（二）に（三）なま（四）ま（五）ら（六）府（七）城（八）ま（九）の（十）内（十一）へ
經（十二）廻（十三）し（十四）心（十五）念（十六）は（十七）法（十八）名（十九）號（二十）を（二十一）修（二十二）坐（二十三）外（二十四）不（二十五）回（二十六）竹（二十七）鳥（二十八）久（二十九）念（三十）不
行（三十一）者（三十二）是（三十三）心（三十四）定（三十五）業（三十六）願（三十七）彼（三十八）公（三十九）願（四十）故（四十一）文（四十二）の（四十三）り（四十四）と（四十五）未（四十六）世（四十七）の（四十八）九（四十九）支
孤（五十）陀（五十一）の（五十二）名（五十三）號（五十四）を（五十五）念（五十六）を（五十七）然（五十八）公（五十九）願（六十）に（六十一）依（六十二）り（六十三）て（六十四）修（六十五）公（六十六）生（六十七）と（六十八）名
の（六十九）ま（七十）と（七十一）は（七十二）あ（七十三）ら（七十四）ふ（七十五）と（七十六）言（七十七）は（七十八）る（七十九）と（八十）未（八十一）凡（八十二）日（八十三）修（八十四）公（八十五）願（八十六）と（八十七）名
布（八十八）念（八十九）の（九十）修（九十一）利（九十二）を（九十三）あ（九十四）ら（九十五）ふ（九十六）と（九十七）言（九十八）は（九十九）る（一百）と（一百一）未（一百二）凡（一百三）日（一百四）修（一百五）公（一百六）願（一百七）と（一百八）名
こ（一百九）ち（二百）か（二百一）ら（二百二）ふ（二百三）と（二百四）言（二百五）は（二百六）る（二百七）と（二百八）未（二百九）凡（二百十）日（二百十一）修（二百十二）公（二百十三）願（二百十四）と（二百十五）名
休（二百十六）活（二百十七）利（二百十八）を（二百十九）一（二百二十）修（二百二十一）長（二百二十二）と（二百二十三）名（二百二十四）一（二百二十五）修（二百二十六）度（二百二十七）を（二百二十八）坐（二百二十九）し（二百三十）て（二百三十一）未（二百三十二）凡（二百三十三）日（二百三十四）修（二百三十五）公（二百三十六）願（二百三十七）と（二百三十八）名
俗（二百三十九）集（二百四十）會（二百四十一）一（二百四十二）修（二百四十三）ま（二百四十四）さ（二百四十五）ら（二百四十六）ふ（二百四十七）と（二百四十八）言（二百四十九）は（二百五十）る（二百五十一）と（二百五十二）未（二百五十三）凡（二百五十四）日（二百五十五）修（二百五十六）公（二百五十七）願（二百五十八）と（二百五十九）名
入（二百六十）最（二百六十一）と（二百六十二）言（二百六十三）は（二百六十四）る（二百六十五）と（二百六十六）未（二百六十七）凡（二百六十八）日（二百六十九）修（二百七十）公（二百七十一）願（二百七十二）と（二百七十三）名
一（二百七十四）修（二百七十五）ま（二百七十六）さ（二百七十七）ら（二百七十八）ふ（二百七十九）と（二百八十）言（二百八十一）は（二百八十二）る（二百八十三）と（二百八十四）未（二百八十五）凡（二百八十六）日（二百八十七）修（二百八十八）公（二百八十九）願（二百九十）と（二百九十一）名
懸（二百九十二）し（二百九十三）ら（二百九十四）ふ（二百九十五）と（二百九十六）言（二百九十七）は（二百九十八）る（二百九十九）と（三百）未（三百一）凡（三百二）日（三百三）修（三百四）公（三百五）願（三百六）と（三百七）名
や（三百八）し（三百九）と（四百）言（四百一）は（四百二）る（四百三）と（四百四）未（四百五）凡（四百六）日（四百七）修（四百八）公（四百九）願（五百）と（五百一）名
社人遷化于時
行歳七十一歳
曼荼羅二幅
曼荼羅の筆

仲道傳授書

山越陀院の画像

相殿

十一面觀世音

此外受取ありては略ん
明長山（一）の（二）寺（三）に（四）一（五）巨（六）刹（七）に（八）一（九）巨（十）像（十一）あり（十二）て（十三）未（十四）凡（十五）日（十六）修（十七）公（十八）願（十九）と（二十）名
明長山（二十一）の（二十二）寺（二十三）に（二十四）一（二十五）巨（二十六）刹（二十七）に（二十八）一（二十九）巨（三十）像（三十一）あり（三十二）て（三十三）未（三十四）凡（三十五）日（三十六）修（三十七）公（三十八）願（三十九）と（四十）名
明長山（四十一）の（四十二）寺（四十三）に（四十四）一（四十五）巨（四十六）刹（四十七）に（四十八）一（四十九）巨（五十）像（五十一）あり（五十二）て（五十三）未（五十四）凡（五十五）日（五十六）修（五十七）公（五十八）願（五十九）と（六十）名

藏王権現社

五ヶ村の生主

九月五日

相殿

十一面觀世音

明長山（一）の（二）寺（三）に（四）一（五）巨（六）刹（七）に（八）一（九）巨（十）像（十一）あり（十二）て（十三）未（十四）凡（十五）日（十六）修（十七）公（十八）願（十九）と（二十）名
明長山（二十一）の（二十二）寺（二十三）に（二十四）一（二十五）巨（二十六）刹（二十七）に（二十八）一（二十九）巨（三十）像（三十一）あり（三十二）て（三十三）未（三十四）凡（三十五）日（三十六）修（三十七）公（三十八）願（三十九）と（四十）名
明長山（四十一）の（四十二）寺（四十三）に（四十四）一（四十五）巨（四十六）刹（四十七）に（四十八）一（四十九）巨（五十）像（五十一）あり（五十二）て（五十三）未（五十四）凡（五十五）日（五十六）修（五十七）公（五十八）願（五十九）と（六十）名

秤石

日本（一）の（二）秤（三）石（四）は（五）一（六）斤（七）の（八）低（九）き（十）り（十一）と（十二）言（十三）は（十四）る（十五）と（十六）未（十七）凡（十八）日（十九）修（二十）公（二十一）願（二十二）と（二十三）名
日本（二十四）の（二十五）秤（二十六）石（二十七）は（二十八）一（二十九）斤（三十）の（三十一）低（三十二）き（三十三）り（三十四）と（三十五）言（三十六）は（三十七）る（三十八）と（三十九）未（四十）凡（四十一）日（四十二）修（四十三）公（四十四）願（四十五）と（四十六）名
日本（四十七）の（四十八）秤（四十九）石（五十）は（五十一）一（五十二）斤（五十三）の（五十四）低（五十五）き（五十六）り（五十七）と（五十八）言（五十九）は（六十）る（六十一）と（六十二）未（六十三）凡（六十四）日（六十五）修（六十六）公（六十七）願（六十八）と（六十九）名



五多房の... 吐前王子は... 建仁元年... 王子次入... 之王子...

建仁元年... 王子次入... 之王子...

地術家津田監物箕長宅

日村のあり... 津田監物... 地術家... 津田監物...

異国の大船... 中一... 直... 船... 他... 其... 長... 内... ち... 解... 舟... 舟...





日延島藏王権現社
 日延島藏王権現社 延喜式内蔵九月五日
 横社 蛭見社 相見社
 今世は皇國の由勅と下しるるに於ては軍田
 村鷹直正の川よ上瀬と権も山を家なるゆへに
 于する川面は唯一所九重の淵をわらわるあり
 なる川に士卒の令しるるに於ては西日よりて
 着暮ふらんくは田村鷹直正なるに於ては
 なるくはなるくは心かかき藏王権現と新語し西

日延島藏王権現社
 延喜式内蔵九月五日
 横社 蛭見社 相見社
 今世は皇國の由勅と下しるるに於ては軍田
 村鷹直正の川よ上瀬と権も山を家なるゆへに
 于する川面は唯一所九重の淵をわらわるあり
 なる川に士卒の令しるるに於ては西日よりて
 着暮ふらんくは田村鷹直正なるに於ては
 なるくはなるくは心かかき藏王権現と新語し西

向くに折くは鷹鷹又鷹の紅日ゆてじ中天下翻りく
権現の擁護もろくなくたよるこひ終ふなりまに海鏡
を退治し長く人氏の苦悩のぞれたるこひよよろくはの地ふ
権現を勧誘し竹田崎をあたまこ日返若くは号くともや
是すまら後水折州お田の押を築くた信盛がた示
と日目の誤り

山王神社

山王神社 山王村あり一村の
生主神を祀

紀神日吉山王神といへ

田村の軍塚

田村の西を町あり今も軍塚寺の
塚あり田畑をわたり

山王神社

右田村あり山王神に
の内二十社あり一社なり後水折大已兼命といふ今も塚あり

金剛山寺明院茶後寺

協権村にあり
新茶根来寺に屬し

本寺弘法大師
茶後寺

松柏村

二株自内あり
大原求開社寺地あり松手つ松たすなり

一は此の地あり
一は此の地あり
一は此の地あり
一は此の地あり

傍に紀の川あり
一は此の地あり
一は此の地あり
一は此の地あり

大市姫神社

赤坂内あり
赤坂内あり

紀神一坐大市姫今相殿二坐

素戔嗚尊
今坐す

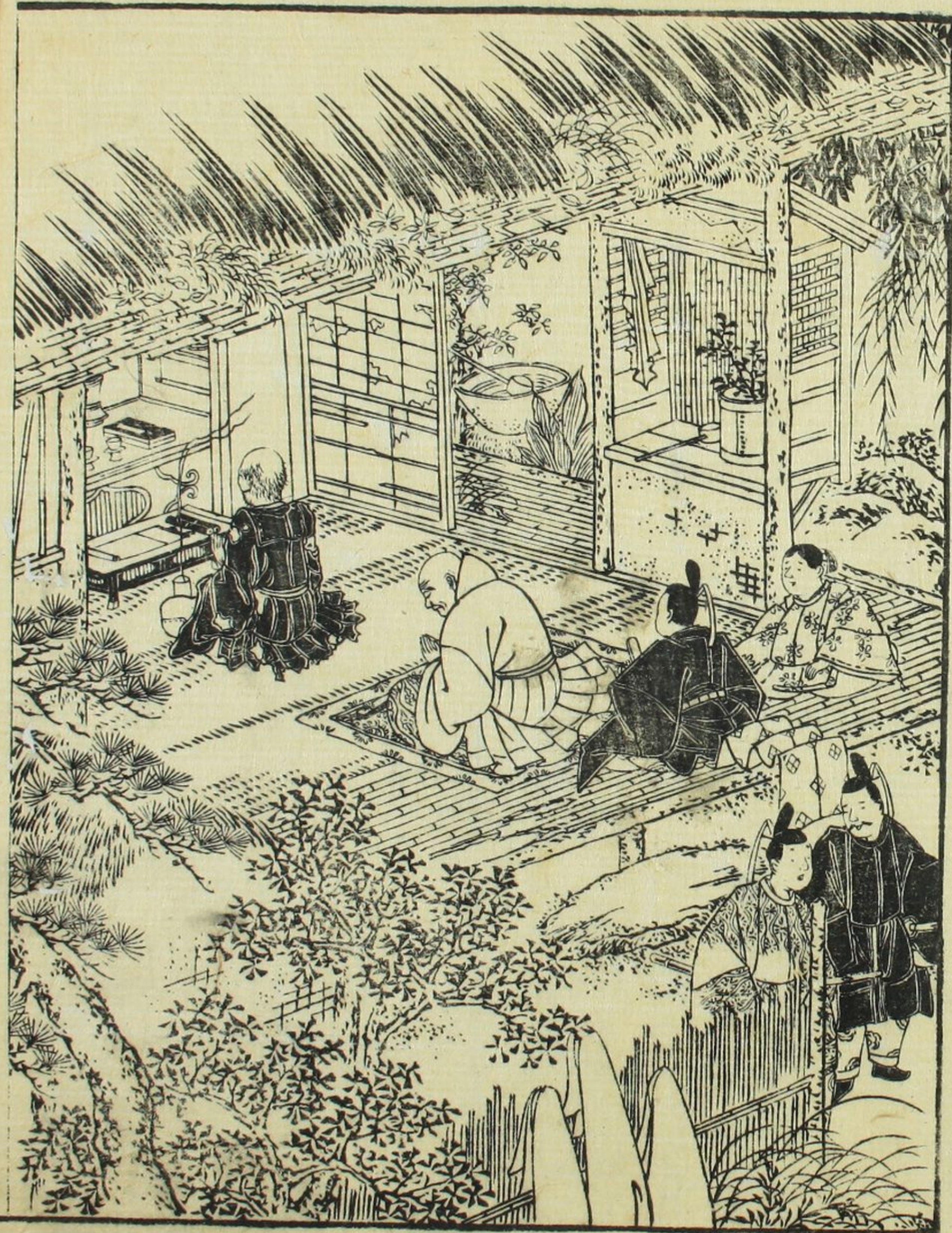
末社

牛神
伊弉諾

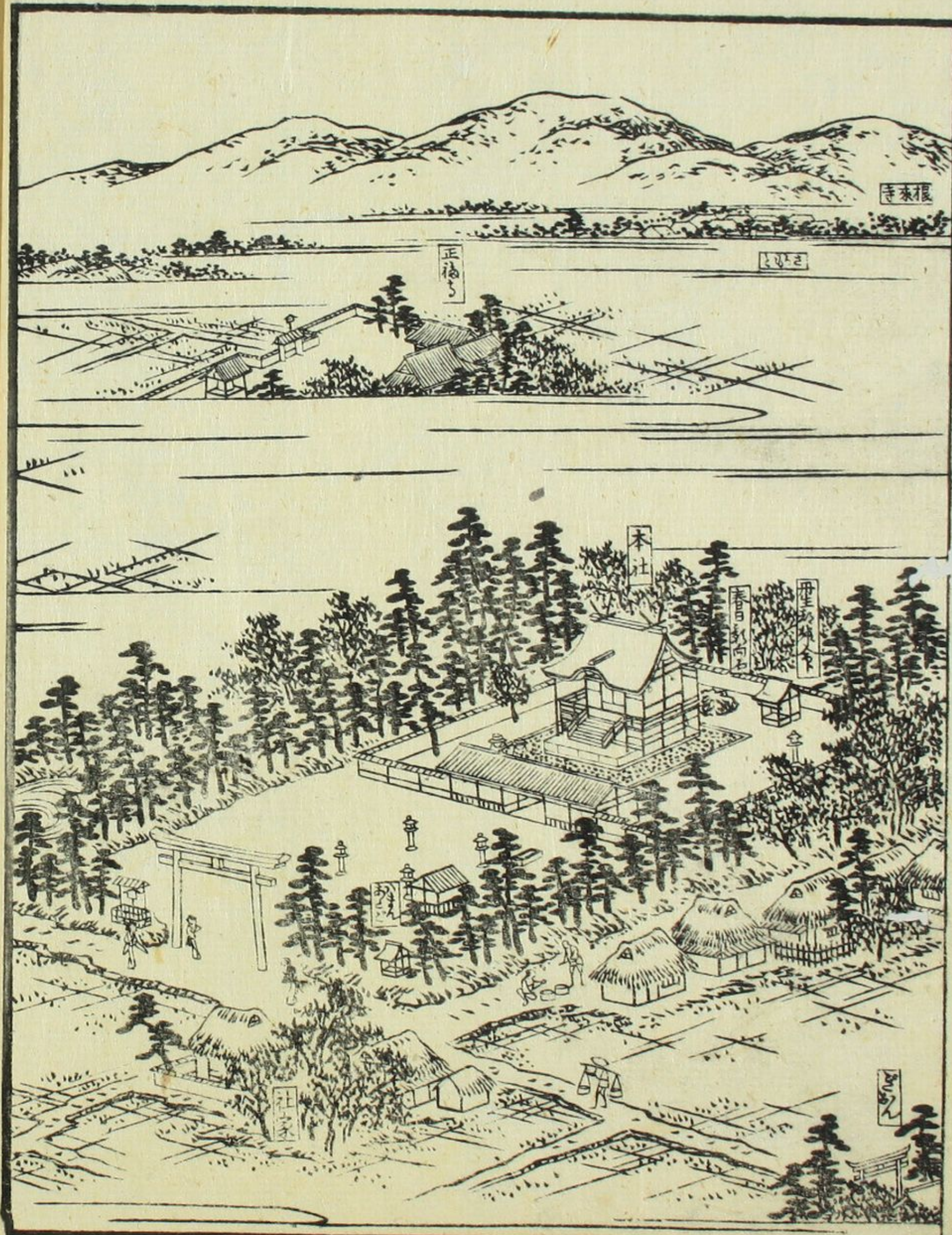
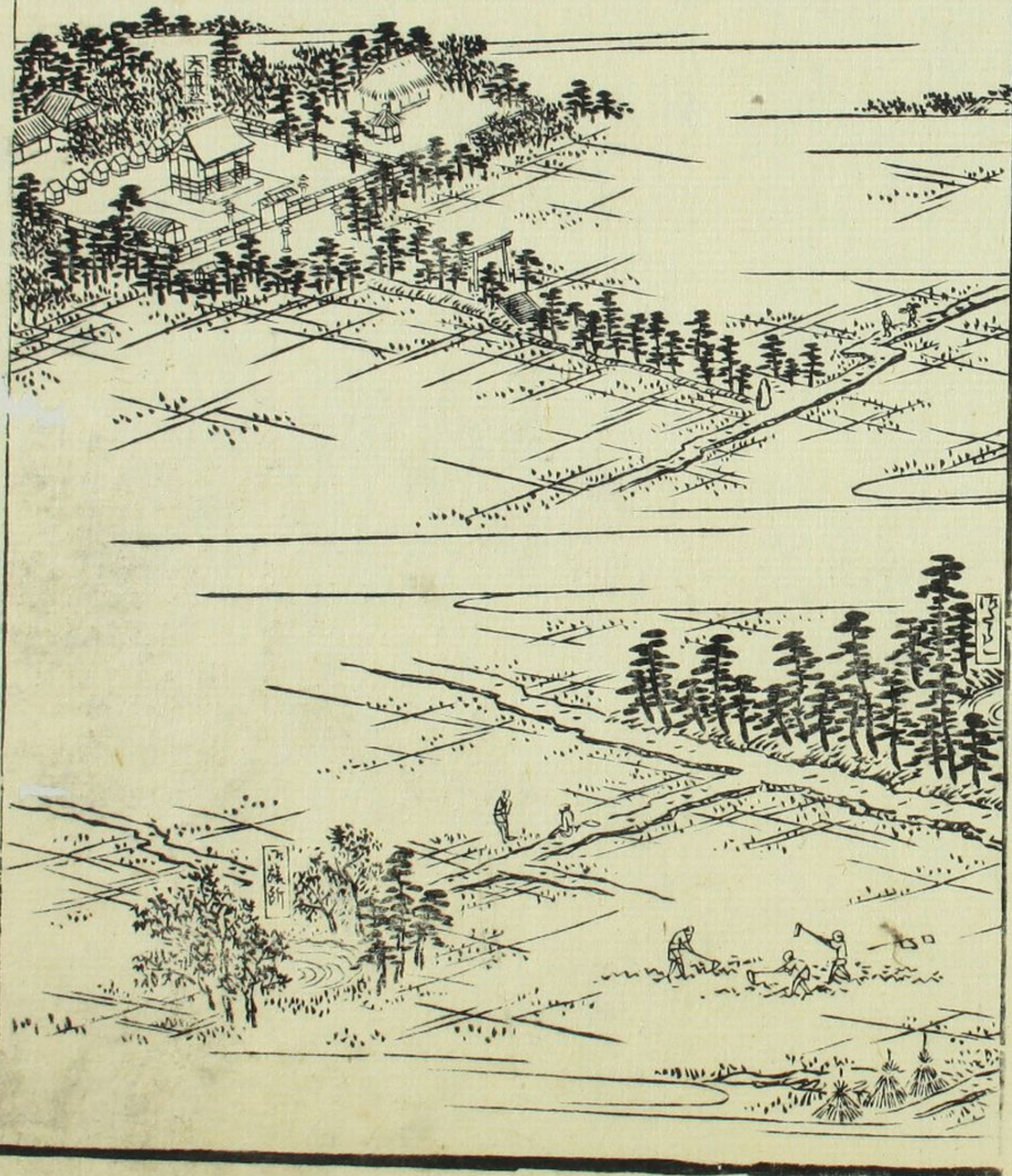
紀神大國御魂神

大國御魂神
大國御魂神

中葉
中葉
中葉
中葉



中ノのんや
 荒田神社
 正福寺
 大市津神社
 茶北
 紀藩
 紅蔭舎
 百社まろの
 茶
 神前
 初ころ



とちん其道心堅固ある美小弥陀如來の化現うごへるも
あはれ心は白川法皇まの御幸の折しも其は徳と志
とをなす心草の樞も鳳輿とあざらしはしく背面より頂也
あひけらしとをまきまきしめ不思議の道德あり

多門山正福寺 曾屋村にあり此花寺の
町及び山本手は
家と永祿六年
の陣石あり 本尊毘沙門天 立像長
一尺二寸 吉祥天女日善尼師童子 上共の安
らゆる心

國祖君 前亞相頼宣卿亦母公 養珠院殿の清波依みよ
ゆき寺いゆく真言の古梵宮とらうし瓜寛永年中

ゆき改宗一曰遠上人と請うて中真の両御とん 聖徳太子
四言薩四

八王子社 生土村にあり九月
生土村にあり九月
えいりこ八王子の社とてん 紀林一坐天忍德耳尊 本國林名張日正三位正哉吉
勝勝速日天忍德耳命天
久須毘命以上八

旗井 社頭より
赤井 社頭より
赤井

赤井 社家舊記
白川鳥羽両法皇 社家舊記
白川鳥羽両法皇

輿止松 五十度松
地 輿止松

荒田神社 廣田庄あり
御多々 荒田神社

祀神五座 天疎向津姫命
應神天皇
延喜式神名張日荒田神社三
本國神名帳日從四位上荒田神社 祀神五座

高皇產靈尊 劍根命 息長足姬命
高皇產靈尊
劍根命

根社丹生都姫神社 根社丹生都姫神社 春日神影向石 春日神影向石

末社 末社 御手洗池 御手洗池

拜殿神樂舎 拜殿神樂舎 御旅所 御旅所

社傳ゆり 社傳ゆり 大徳皇大徳神 大徳皇大徳神

神功紀 神功紀 廣田の社 廣田の社 大徳神神 大徳神神

とろろろの地をも荒田 とろろろの地をも荒田

とろろろの地をも荒田 とろろろの地をも荒田

二月立仲娘 二月立仲娘 皇后生荒田 皇后生荒田 皇女大鷦鷯天皇

根鳥皇子 根鳥皇子 荒田 荒田

皇女 皇女 延喜式 延喜式

皇女 皇女 延喜式 延喜式

皇女 皇女 延喜式 延喜式

二座 二座 荒田 荒田

鬼命 鬼命 五世孫 五世孫 劍根命 劍根命

乃二座 乃二座 荒田 荒田

神社 神社 二座 二座

弄 弄 二座 二座

へを詔 へを詔 二座 二座

もま もま 二座 二座

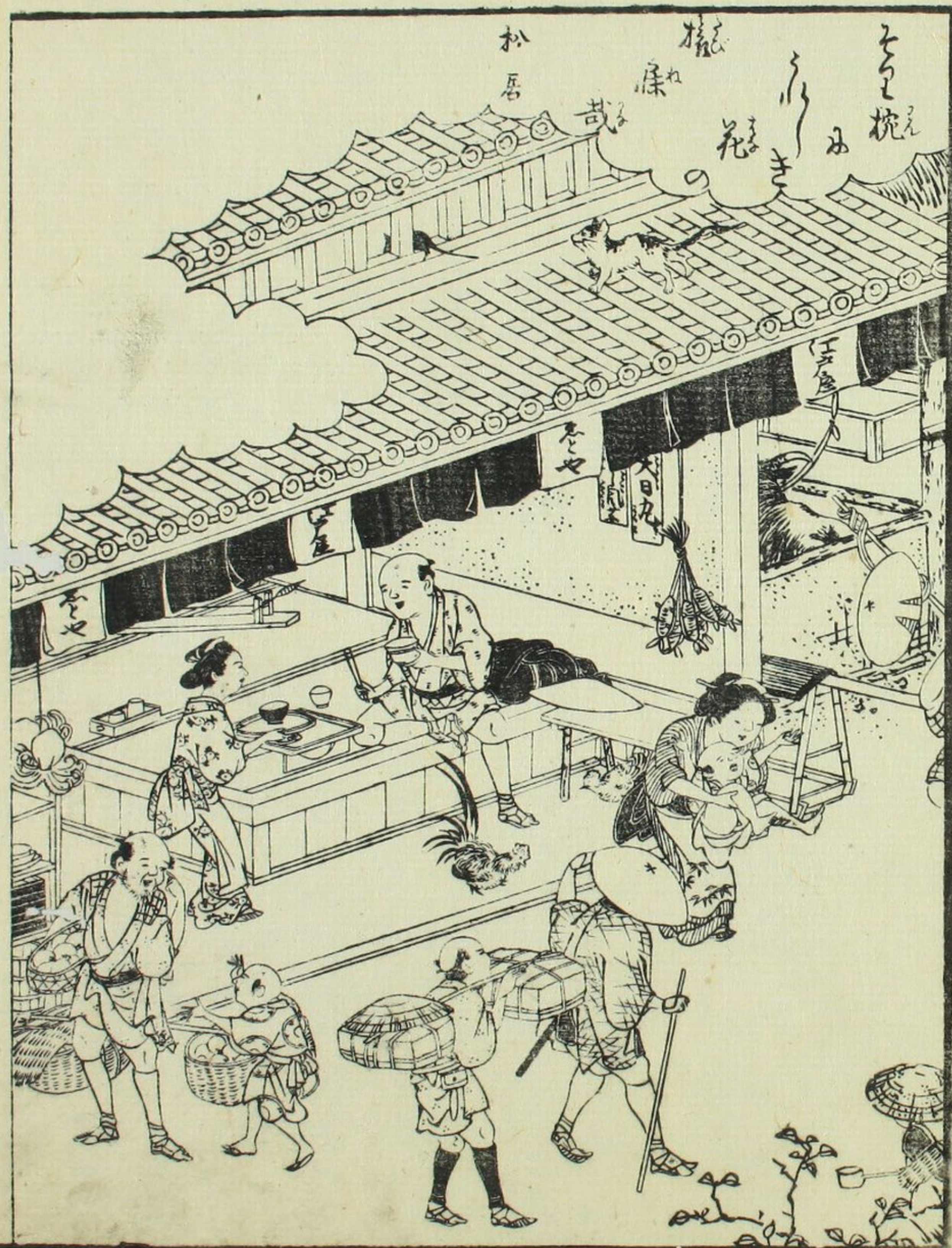
の の 二座 二座

ろ根來 ろ根來 寺 寺 二座 二座

と と 二座 二座

も も 二座 二座

御船神社 御船神社 春六日廿日



住持の
大蛇の
美しき
心と
柱女と
妖中
の
心



紀神三座

天立王命 三置山真神 考按知神

この地はつゆ根来寺全盛のときも境内にあり
一伝云く十三年のやうなまかつて荒廢ゆふ
根来をやうく桃折敷のまゝのりくく
によびちうく蒼田をくく海とありこのあり

の幸ちるべ

住持地

日ちのまきいり里諺曰むしつうこの地は大地とんじん民を
わらうに室谷右兵衛尉忠家とて庄園あまの領なる家ありい
源藏高廣とて北面のさしひありこの地をわらうまこと
つらふとて蛇をくくつらふの男とてけしうのちまはつて
中より大蛇をくくつらふの男とてけしうのちまはつて
両しんちけんをくくつらふの男とてけしうのちまはつて
土平伝きくく地をわらうつらふ大蛇をわらうちけん
家をまわらう田園のやうにわらうはけんか
のりけりつらうとて庄園のつらうとてけんか
けしうの地をわらうとてけんか
とてけんか

根来山

山崎莊坂本村の東北にあり

○一乘山根来寺大傳法院

根来山にあり
宗旨は言新義

峻峯下盡處便到梵王臺風度山鐘斷雲深谷鳥哀

福世謙

紺園已蕪汲画壁半摧頽寂莫松門路従人詠古来

傳云むり役優等賽神慶大菩薩葛城と練仍のは根来山
本く勝地とて瓜愛しく秘密一乘相應乃靈地とて自ら
芥菜とて見自の肖像を彫刻しつらうをくく護じしめ
だすくや此像今護摩堂 厥后堀川院十三代
修験の者根来坊とて人あり 密宗の一寺造立の志
願ありく那智山の滝とて一千日誓行念せ一夜の夢ゆ

根来のまゝ教お急の靈地とて一院を草建とてこれ
もまゝ告あまのりち地めきとて若者堂のりち
一字は建立一豊福寺とて本尊虚空藏菩薩と安ん

後み真教大師 上人 當ふありて法幢をたは法雷をたふ

角僊の兆室 一山の中央あり 仰べしきいじ

大傳法院

本寺 長一丈八尺鳥懸山 鳥羽上皇の 大金剛薩埵 長を丈六尺人侍僧門院の頭髪と座下ぬ

右尊勝佛頂 長を丈六尺花鼓美福門院の

原當ふの本願真教大師 鳥羽上皇奉く仰願寺にたす

天養元年高野山帝建立ありて後百五十八年を歴く正

應元年根ふの後と仰奉願真教大師諱は覺正覺坊と號

高野ふの密嚴院をたす住る皇より世の人密嚴寺者

と奉つる俗姓肥前州藤津の産に柏原乃帝 桓武 五世の

孫平将門属胤依統兼元の子あり 彌十歳九

橋氏ありける此後傳の御に仁お寺成就院寛助大僧ふは

とく松ふの思は沙をてる者ふや南都ぬ老い

俱舎唯識瓜窺の華嚴法相ふとまふたす 年がたらん 幡然野

の神ふ護持ふるふとふを洋瑞多し又弘法大師早く

寺ふてんふ瓜中ぬふがたまふて天養元年十六歳

以て寛助大僧正ぬまふて新發深衣しゆ保戒瓜の十八

契印兩部の大法衣はふぬ保安二年九月廿一日成結院

の道場より西部の灌頂をうけたまふたぬ眉見より白先瓜

とあら菅肉をてて大治元年永尋阿闍梨の勅ゆりて真隆の

志願堀起し大傳法院を建て傳法大會瓜執持し密教と

恢弘し羣生瓜利濟せんて園を東寺ぬ寄寓し縮行明

神ぬりるとあつら心林の昔瓜あつて高野山よりたす

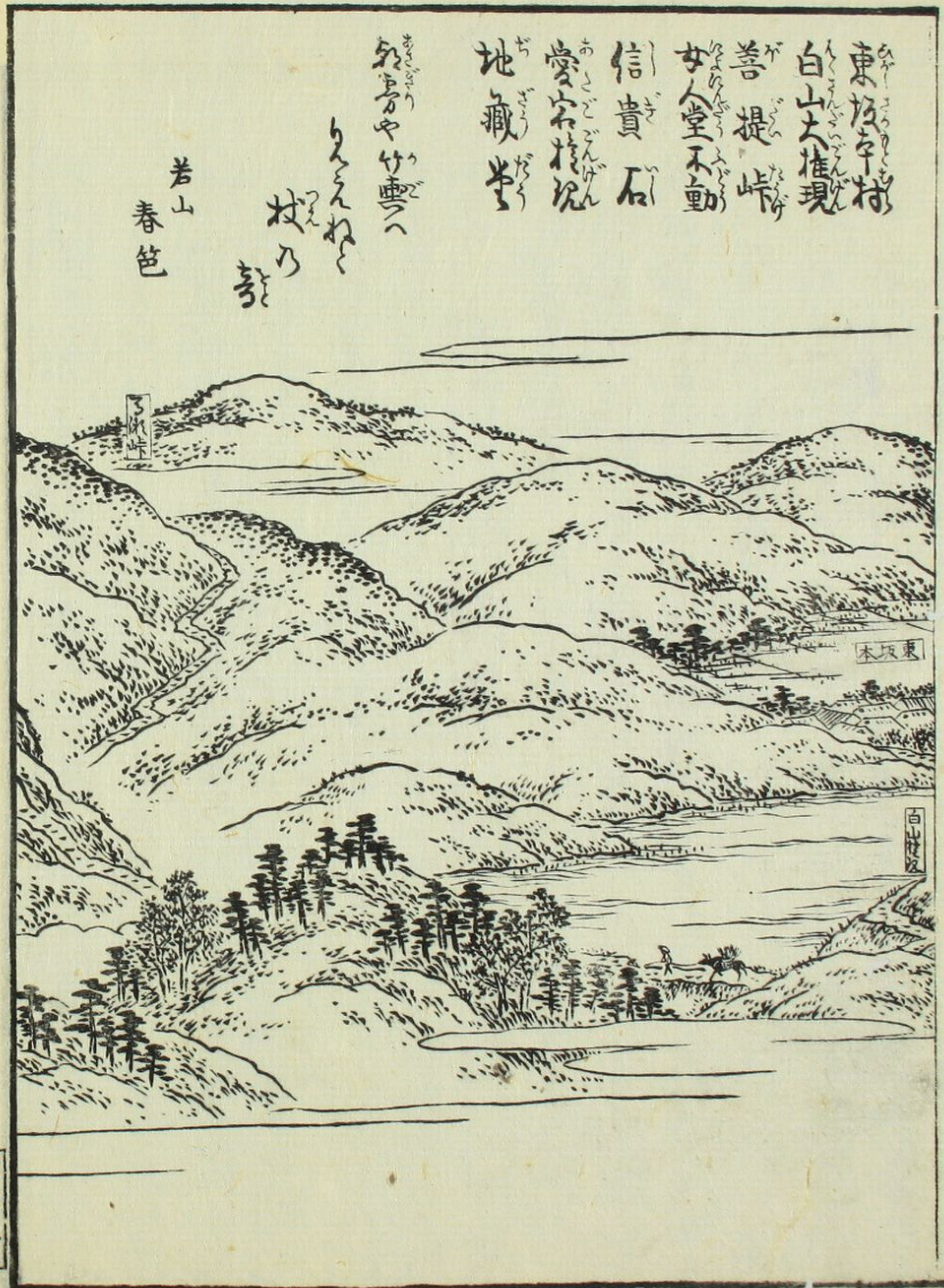
高野川の辺りより岩手の莊の契券を拾ひて遺者とて

ぬいたまふ券主なる者のころごとく瓜感して岩手の莊瓜

若ぬ寺附しきり是年根來山瓜相りし伽藍を建んと

欲し先一祠を名手のたぬ宮をしく日本國中大小の神祇つ
千餘社を勧請しく二部権現と崇めまつりて以鎮護と
とに白山権現像をあつて吾上人の善願を隨喜しく
影のどくきささひく衛護とて宣ふるまふより別根來山
の巽のゆりて一廟をめぐり崇まつる大治五年花藏院聖
慧法親王を歸し小詣りたまふた宮奥のすか間や
鳥羽上皇へ奏聞あり院とあり勅し沖願寺と傳法
院日ゆびとてか夫の尊勝佛頂を奉置し学侶二十六人と
並後れ小傳法院とありありとて終に終溢めし大會と終
ちひ難くし更ぬ奏し大傳法院をこたらる十月十七日傳
法密嚴日日月落慶と曼荼羅供養を設け日日上皇臨幸
きるひ夜かへ大傳法院のくもて傳法大會公をよ
其密嚴院に居る者常居の室みし本尊の弘法大師御

他の不動尊ちり下の院の神行春日明神ありむし擁護の給を
ゆるり今招請とて警の童りくら瓜現とて未降ありて餘産
とと部九社の神廟佛閣経藏僧坊おはる建たむら大傳法大
會の供料しく沖賜の莊園七ヶ所 石手 山手 山寺 山田 山等 山田 又別み
遠只初倉の莊園曼荼羅供の用度めたまへ長兼元年住持性
の珠を造りて門天王のくもませし寶珠をほんく不動
寺の鳥窠めたるたまへ此宝珠は太治のまむおたねの信貴
ゆめ登る皇身陸のくもつたまへに畏沙門天王現形とて
三顆の宝珠に授かる其一顆をうり一顆二兼山めたる一顆は自
身護持しる入寂のまめ根もらむらむも多手の物に
の玉塚ゆめもさへ緘封し不効の厨中に奉りて又同
二年七月十二日上皇を者をやく鳥羽の寶藏を因園あじや
なまし又詔し藏中の所有らむきささひく投交とてし



東坂宇村
 白山大権現
 菩提峠
 女人堂不動
 信貴石
 愛宕権現
 地藏堂

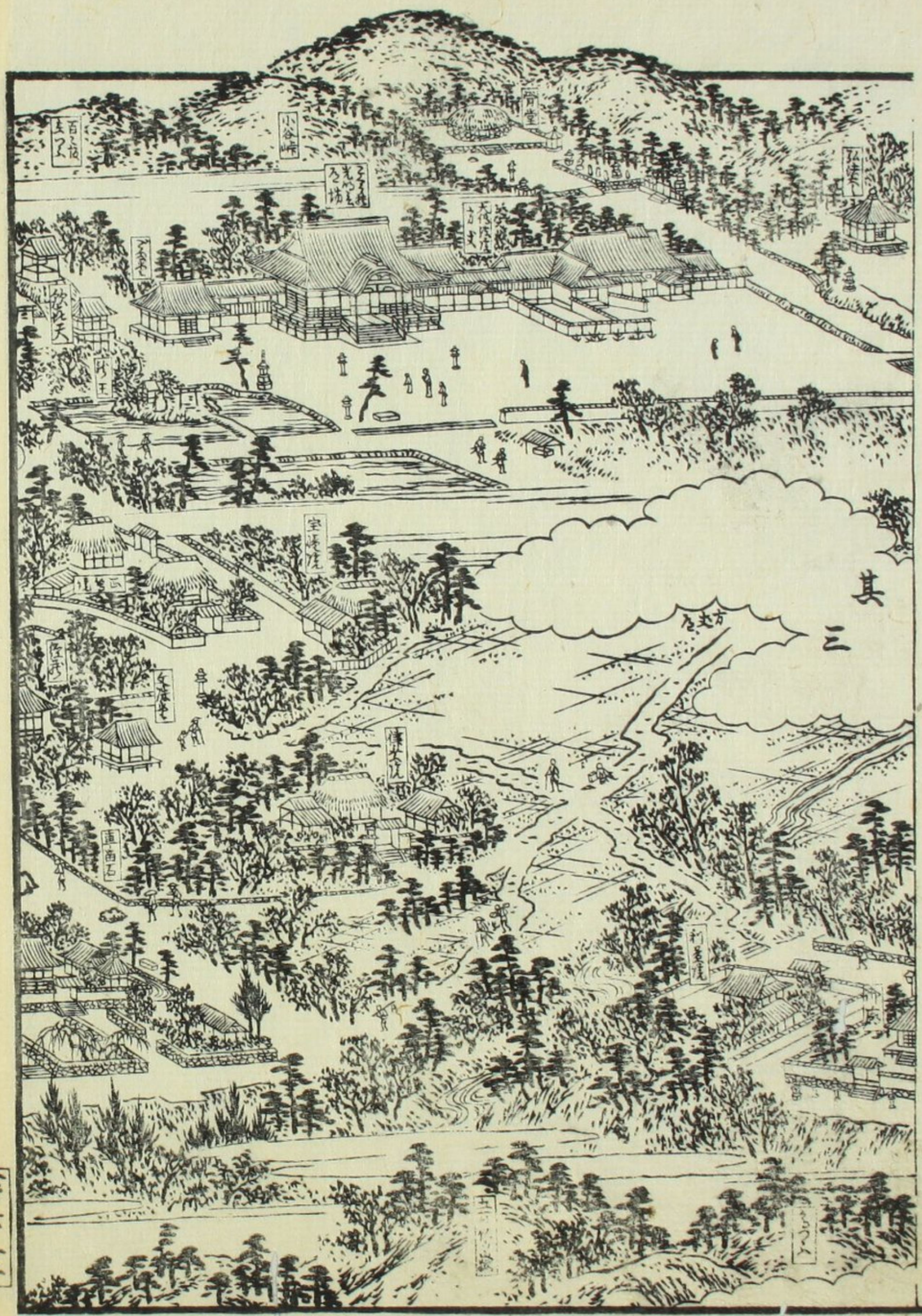
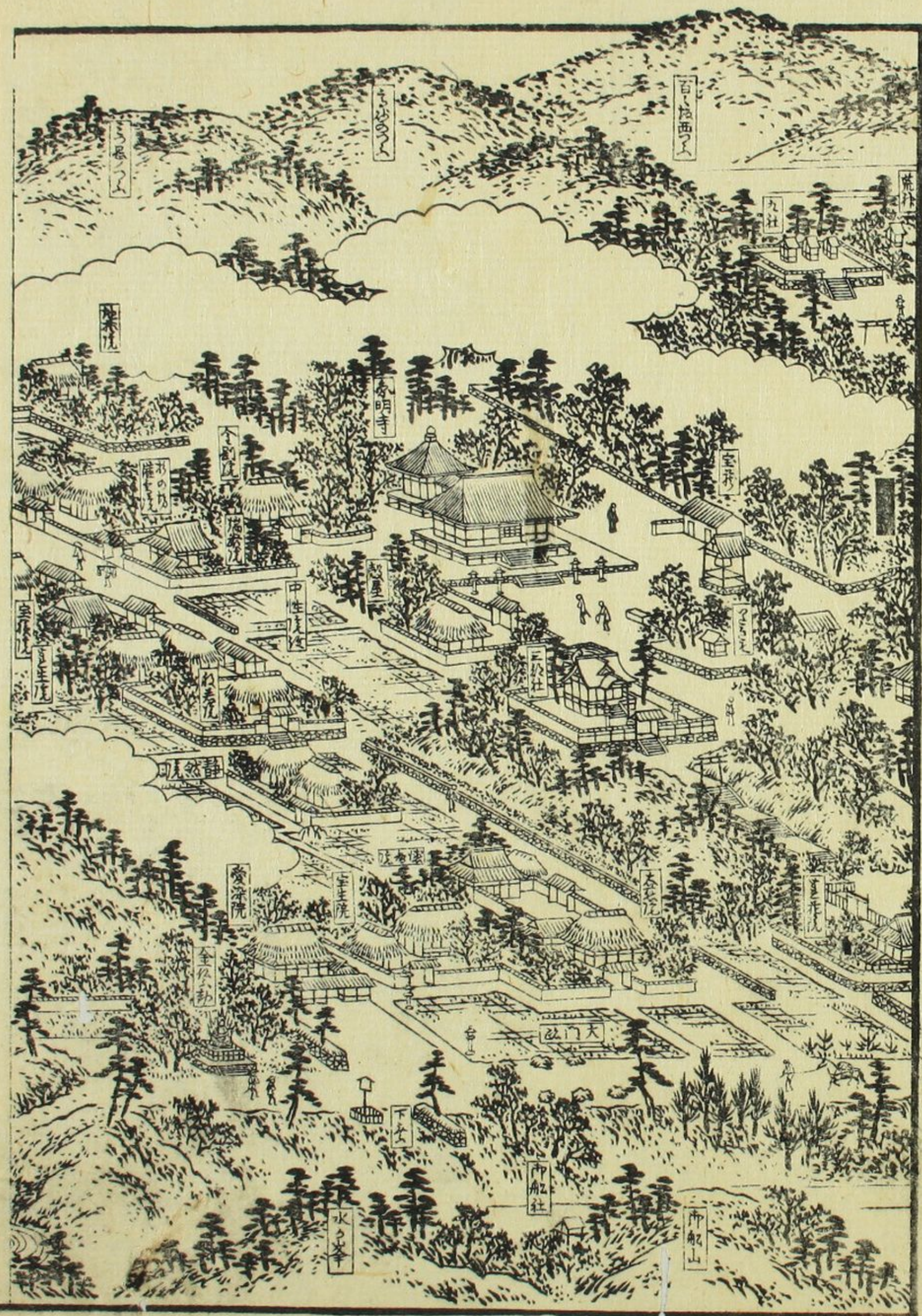
外方や竹雲へ
 りんねね
 杖乃
 若山
 春色

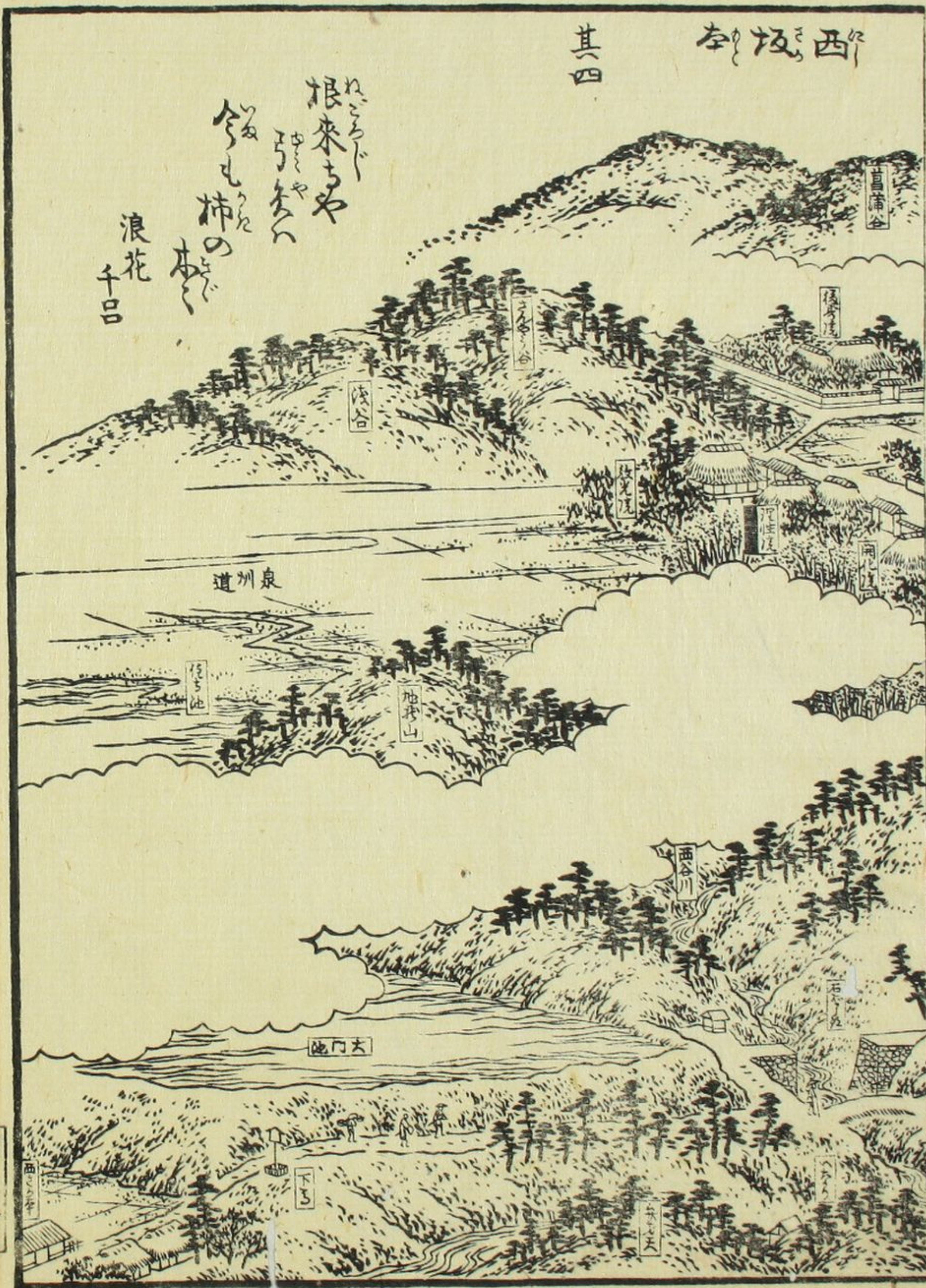


其二

大傳法院
 維濟不動
 大塔
 光明會坊
 圓明寺
 御影堂







めんとありき者とから高野大師手画の等身の像と善
 女新王の画像と二鋪を請ふたなりて持るゝ寺鎮じ
 たま相國忠通公青龍の感多真福寺の跡也が懺悔八幡
 大菩薩の偈を説く禮拜し上皇白蓮の殿上み生れとゆら
 りぬ〜〜〜尊者の象内は志るし召まて五藏の祕
 觀み入るゝの賓生ありに現し〜〜〜暗言〜〜〜その餘
 靈瑞もかりと多し長業三年冬十二月上皇詔して傳
 法院の座主〜〜〜金剛峯寺の座主〜〜〜と云
 可承以大傳法院座主職即為金剛峯寺座主令知行滿山
 車被院宣備自今以後承以件院座主即為彼寺座主可令
 檢校一山知行滿寺仍供僧所司等中有闕之時座主擇器
 可令定補滿山諸德亘兼知不敢違戾者院宣如此悉之以
 狀

長承三年十月廿三日

座主御房

右兵衛督源奉

保延元年尊者四十一歳宮建の願満^ん一傳法大會^ん真隆佛
法の基本已^ん成立^ん一々茲年金剛峯寺大傳法院西御願寺
の座主職^ん持^ん内院^ん阿闍梨^ん真誓^んに讓^んく密嚴院^ん内院^ん義^んを
三摩地^んを修^んし^んて^んな^んる^ん二月廿一日より後^ん堂外^ん出^んる^ん
も月を越^んて^んより^んあ^んま^んち^んら^んる^んの^ん間^んより^ん窺^んひ^んて^ん
不動明王^んと^んあ^んつ^んて^ん如^ん樓^ん羅^ん跋^んの中^んめ^んを^んた^んし^んて^んり^んか^んつ^んて^んは^ん四^ん
五の市^ん年^んより^ん密^ん嚴^ん道^ん場^んに^ん坐^んし^んて^んも^ん動^んれ^んた^んら^んな^ん門^ん
内^んへ^ん他^ん人^んの^ん出^ん入^んを^んま^んじ^んり^ん唯^ん兼^ん海^ん竜^ん玄^ん等^ん兩^ん人^んの^ん外^んに^ん身^ん止^んて^ん
衆^んの^んち^んり^んと^んい^んひ^ん金^ん剛^ん峯^ん寺^んの^ん徒^ん衆^ん嫉^ん妬^んを^ん起^んし^んて^ん正^ん覺^ん上^ん人^ん入^ん滅^ん
し^んて^んま^んに^ん經^んと^んも^ん徒^ん衆^ん未^ん院^ん勢^んを^ん會^んつ^んて^んは^んを^ん藏^んたる^ん
お^んの^ん戸^んを^んこ^んり^ん入^んり^んて^ん傷^んつ^んた^んら^んん^んと^んも^ん押^んへ^んて^ん密^ん嚴^ん院^んに^ん擊^ん

破^んる^ん枯^ん骸^ん瓜^ん擊^ん出^んして^ん和^んし^んて^ん先^ん院^んの^ん廳^んに^ん差^ん込^んて^ん曰^ん
正^ん覺^ん上^ん人^ん滅^んし^んて^ん已^ん小^ん彌^ん殺^ん羊^ん徒^ん衆^ん未^ん院^ん詭^ん計^んは^んを^ん藏^んして^ん
矯^ん誣^ん聖^ん聽^んと^ん二月十六日尊者定^んより起^んて^ん手^ん書^んを^ん上^ん
皇^ん女^んを^んる^んと^んあ^んつ^んら^ん宣^ん旨^んを^ん属^ん日^ん有^ん浮^ん説^ん而^ん傷^ん聖^ん襟^ん忽^ん
手^ん杖^ん至^ん天^ん顔^ん大^ん怡^んと^ん四月二日大傳法會の散座^んふ^んる^ん者^ん席^ん
に^ん臨^んく^ん秘^ん教^んの^ん妙^ん義^んを^ん演^んた^んま^んし^ん百^んの^ん聽^ん徒^ん歡^ん喜^んと^ん涙^ん
を^んら^んる^ん其^ん後^んま^んに^ん出^んる^んに^ん保^ん延^ん六^ん年^ん十^ん二^ん月^ん七^ん日^ん先^ん徒^ん衆^んの^ん
諍^ん訟^ん小^んよ^んる^ん時^ん右^ん兵^ん衛^ん督^ん源^ん奉^んの^ん徒^ん與^ん大^ん傳^ん法^ん院^んの^ん
壯^ん丁^ん等^ん數^ん百^ん人^ん瓜^んあ^んつ^んむ^ん大^ん傳^ん法^ん院^んの^ん徒^ん五^ん百^ん餘^ん輩^ん此^ん奸^ん計^ん
を^んま^んじ^んり^んて^ん防^んた^ん戰^んと^ん議^んは^んる^ん者^ん定^んと^ん出^んて^ん制^んし^ん止^んめ^ん
を^ん暴^ん惡^んの^んも^んう^んり^ん監^ん入^んせ^んら^ん汝^ん等^んを^んこ^んり^んて^ん兵^ん杖^ん執^ん投^んる^ん
沙^ん門^んの^ん化^ん業^んに^んあ^んつ^んら^ん防^ん戰^んと^んる^んの^んあ^んつ^んる^んに^んか^ん後^んを^ん擲^ん出^んる^ん
下^んに^ん嚴^んめ^ん誠^ん言^ん勵^んし^んて^ん人^んを^ん涙^ん流^んし^んて^ん齒^んを^ん切^んり^ん退^ん去^ん



八日の味爽光徒等密處に於て定軀を擧らんたるは
不動の二像相たるべし相議しく云本材と肉身と維續せ
は其實否を覺せんとも夫能をのり像の膝に續きたらば
血を流し地に下る尊者也歟と自ら夢をあげてそまの奉尊
なるを過すか後いかにあり免も角も半して定瓜出せばも光徒
本像の血滴たる瓜も身の毛もそらたそる者の徳威は依て
敢て抵觸するものありとも考へ明ま瓜荷有しく根本ありひた
なるに數百の清衆皆さる者みまらるる根もみまらるる密處の
奉る瓜維續不動と稱するは是なり此の像の奉る法大師彫
刻しく東寺の西の院に安置するを奉る者東寺に寓宿て
手自に像に接刻するを美福門院開召く奉る摸の二像を宮
中みむる佛の供養しく摸像瓜東寺へ奉像を密處院へ送
送らせたやうに其摸像現し東寺にあり寺衆の暴悪を天誅

達しく巨彌宗玄玄信覺玄未二十六人を捕へて三衣を脱し
俗めくしく遠く配流し兼實未の北余人の者のみと取
て薪水の役を勤むる誓紙をのり罪を謝するものにて
二百九十九人満山の僧侶のしく應に依るに於て上皇
尊者も勅しく野にみくじむる者考しく日愚昧之徒
於一味法海抱彼此別執ふ可斬示化根來山若役優婆塞經
の之靈蹟形勝不多滅野峯所以自大治初豫岡基趾伏望に在斯
勝壤永激禪波奉祈宝壽天長國家地久々も勅して免許せり
淨侶へもまを傳法院に之に住し春秋の大會合山の諸規
奉のしく執りいなる根本に圓明寺を創建し上皇命しく所
願寺と志するに佛塔神祠經藏僧坊等數十區を造る永治元
年百日の同求開持の法を修めたるに詰願の日向人の山に五百
の佛面地より涌出る其所をとりて求開持のしくもま

五百佛の... 常小田月寺の西廂... 堂前... 小池あり
夕月輪水上に現れり... 淨子達本版に摸して
堀の内... 堂前... 小池あり
康治二年... 者四十九歳七月廿八日... 其版圓明寺あり
大衆... 勝多羅尼を端平愈を... 者日生北を常
誰... 免... 只速疾成佛を... 十二月十二日
圓明寺の西廂... 結跏趺座... 手に秘印を... 口を密咒に
誦... 禪定... 息絶... 生... 四十九歳
縁の薪... 五時の説... 満... 傷... 濟
度... 雙林... 朝... 先... 山... 寫... 樹...
帝... 別離... 副嶺松嵐... 哀動... 声... たる

徒衆... 號哭... 緇白... 後泣... 入滅...
あぬ... 者... 大... 已上根來寺縁記
大意なり

雪玉集

天文二年四月廿日... 鳥の社信田の... 取... ありて
... 根... あり
... 馬... ありて
... 侍... あり
... 十輪院... あり
... 坊... あり
... 角... あり
... あり
... あり

後ゆきけがれなきかりなる水侍もあんく遊み諸堂巡れ
侍と山中見る物のごとくはくぬきとらふさうりは奉堂
傳法院もくねひはけけし

高砂山口ゆきにもあさきふ法公徳ん世のあも 内大臣實隆
維の不動を拜見し

動とあは身をりけてなる染をく血の涙ともあはてなる 全
續後拾遺

夏の中あも現もあまあはさるあも現もあまあ
此強はねのい出くし

あま現もあは七十のたつふ日あまの世のあう 内大臣實隆
実相院のい所あつてこれれうらや

すもあつて初夜の鐘はきこく
あひまひさるあつておひらねはるのい聞あり 全

あつた鳥羽院浄梅物の市鏡を上人あまのせむの上人を
賜ましく羨し

真澄鏡はねむる姿を誠か二世の佛をりる 覚鏡上人
太上皇の市くし

續千載集
西行上人撰集抄云
さかかき誰も佛もあつて鏡の影はるは

近頃あつたあまあ賞鏡上人もあつてあまあいどおはなり
真言宗もあつてあまあ一印頓成の考の花あは寂真の霞
の夜あつて一禪心合掌の秋の月あつて無垢の心あつて
あつてあまあ法師の昔の跡をねむる傳法院のあまあ
龍花三會のあつたあまああつてあまああつてあまあ
あまああつてあまああつてあまああつてあまああつて

志くはゆるべきいと傳法院へも彼覺後の入定をなさんと議して
 佛をせにたり覺後の門徒を多くし力あつくりくみおゆる
 本地の僧入定のともめ丸入くくるみ不動尊二神にまはけり
 一醉の覺後の目ごころの奉るの不動ゆたなり申して今ひらの
 聖の化くるやまを但しつれ見るとはいつすごとためらひ
 なるみある僧の二神の不動をこころより信ぜ少くあまらぬれり
 けまはまはど覺後よそそちかひくきりたれどもあきれざりたる
 ちうのそつてきるねみ覺後まあまはのよきこれたまふなり
 かうまはむぐんの谷みうりたる其後覺後まのふもまきりせ
 けぞう那家かほ所にもあまらそ紀伊國根本まつちまみ庵をけり
 てねりくくる四十九のりたる十二月十二日ある生生の素懐とてけ
 たるまもるん備も書置たるへるこころの中み禪三昧のこころを
 誇しあをうらたりしともかごととどくともあまめくみはりて

まう信み誇けり利せんともかをねしはまはとんともみ身ゆま
 とそたうとくと侍る 下略今撮 是後定めてはひのこころにのりて

○什物品

- 一 鳥羽天皇御肖像 岡山大師筆 一鋪
- 一 開山大師影像 鳥羽上皇御筆 一鋪
- 一 右 南龍院殿御拜覽奉稱薄衣御影 弘法大師御筆 二鋪
- 一 西界大漫荼羅 興山大師御筆 二鋪
- 一 日種字 二鋪
- 一 佛舍利 二鋪
- 一 不動明王大御劔 長七尺三寸 廣三寸五分 文殊金助重國作 一振
- 一 右 南龍院殿御寄附 二百餘面
- 一 散樂假面 二百餘面

右 前中納言大真公御寄附

其餘繪木佛像佛具世具珍器等奉呈し給ふ

○住古堂塔大概

大塔 五間四角高十八間 本尊金六日如來 長三尺四寸五分外寸十三尊

大師堂 三間 御影本像 長三尺 不動堂 二間四面瓦背 經藏 二間

阿弥陀堂 三間 鐘樓 中門面五間 穀屋 湯屋

右大傳法院境内小あり

錐鑽不動堂 五間 本尊不動明王 長四尺六寸 樓門

求聞持堂 三間 多寶塔 三間 經藏 二間 地藏堂 長三尺四寸

春日社 指皮尊 拜殿 鐘樓 穀屋 毗沙門堂 天満天神

右密藏院境内小あり

御影堂 面十七間 中尊覺鏡御影 長三尺寸五分 龙眼相應不動

右殿尊勝佛頂 三部推現 卒表別種字

伊右祈曾社 御藏 鐘樓 樓門 中三門 寺前六間

右圓明寺境内小あり

豐福寺 五間 本尊虚空藏 長一尺寸 藥師堂 二間

千手堂 三間 鐘樓 中門 地藏堂 閑山堂 役行者堂

九社大明神社 御正尊 三社一社 各三社 拜殿 宝塔 荒神社

右豊富寺境内小あり

千手院 三間 本尊阿弥陀佛 文珠堂 三間 鐘樓

毘沙門堂 三間 不動堂 三間 大六堂 三間 本尊阿弥陀佛

右小谷小あり

菩提院道場 護摩堂 五智堂 五佛堂 横三間

本尊五佛 辨財天堂 不動堂 三間 毘沙門堂 三間

穀屋 稻荷明神社 関伽井夷 辨才天社 地藏堂 三間

右菩提谷小あり

観音堂 三間
八角の不動堂 四面
本尊馬頭観世口 長三尺一寸 鐘埵

右大谷ゆあり

五寶堂 三間
本尊阿弥陀佛 虚空藏堂 三間
薬師堂 三間
観音堂 三間
地藏堂 三間
大師堂 三間

右蓮華谷ゆあり

地藏堂 三間
本尊地藏菩薩 薬師堂 三間

右西谷ゆあり

観音堂 三間
大師堂 三間
本尊弘法大師 辨財天堂

右菖蒲谷ゆあり

阿弥陀堂 三間
求闻持堂 三間
本尊虚空藏 稻荷明神社

右三岡ゆあり

御船大明神社 辨財天社 拜殿 稻荷明神社

右前山ゆあり

一山境内 南十町半 西十二町
北二十町 東十一町
番屋沼 未申のこま
下馬口 成妻のりま
百坂口 東金剛童子
善提峠 辰巳のこ不動長二尺五寸
覚録上人の所作

两学頭

妙音院 和州長谷寺ゆ移り
月輪院 小池
教應院 小谷
釋迦院 前山の
惣持院 大塔の
理趣院 前山
智積院 京師東山ゆり
修学院 又其先西学頭寺六院
前山

抑閑山興教大師高野ゆありて天承元年大傳法院建立ありて金剛峯寺大傳法院兩勅願寺の座主ゆ任となす其後保延元年春兩寺の座主職を持明院真言阿闍梨譲りて隆海ありて相續く座主職ゆ任び学頭入宝生房教尋ありて曜覚房信惠ありて等當ゆの座主学頭尤ゆ任師の門葉

めく相續し來りたる百廿餘年を經くのち中住院頼瑜法
印學頭たりし天朝ゆ養しありて正應元年戊子の春傳
密嚴二基瓜根本ら引らるゝの傳法院方の大衆あつて
きつるにやると根本寺大繁榮とありきつるに建武二年武
百餘年世間靜まり軍卒の狼藉監妨甚しきと行人の徒
甲冑をもち兵杖と擡つて山寺を守護と學侶の道瓜
終して世に遠くとも行人非學のをもぐるが執甚
きく後ゆが都の他を奪ひ人の境を侵し其魁二四人所謂
專識岩室河伽井杉の坊あり各百千衆を率く威稜軍
將のてく大坂の命ゆ從りて依て去る十三年二月廿日
佛圖作坊を去り二千七百餘宇一時に灰燼とありぬ大傳法院
下廊は此災を免りて瓜京師紫野の文藏司と云人豐大商人
たるりて寺瓜毀ち奉尊は瓜材多きを船に積り淀川を

引のむせら其後慶長元年京兆尹板倉伊呂波を聞て文藏司を呵責し
根來(送り)とむる耐奉尊三俵の根來へおろし返りたり村
本ありて大坂を棄てて朽敗たりたり慶長のころ淡路
大京を去り幸長千時命して根來山の四至傍示を云し山林濫伐
を禁止元和九年國祖南龍院殿彦坂氏命して法度
とさめ東西の坂をいり制れをうけ下馬せよ下乗の本牌を
立てたまふべしと行人を割據血腥の固執をぞ除け數年山
中穩あつるに實曆元年國君大惠院殿おま野野氏
日向守命して行人お瓜逐ひをいして蓮華律乘兩院をり
兩寺頭と定めし六十石瓜寄て僧厨を貸たふべきと根
嶺再貞此君のちうに依まり嗣君善提心院殿先考の御
ころご瓜續く衆僧をくく國家の安全をいのこしむ
常光明會の大婦人清信院禪尼公の御願をり壬午智積院

若山 高市志友編述

雕刻姓名

浪華 武内華亭刪訂

四之卷上 京都井上治兵衛

西邨中和圖画

四之卷下同 同

京師 渡邊玉壺齋書

五之卷同 樋口源兵衛

六之卷上 大阪山崎庄九郎

六之卷下同 同

文化九年壬申正月

和歌山

帶屋伊兵衛

製本書林

浪華

河内屋太助

自得捷徑 廣用算法大全

全部壹冊

此書ハ地算ハ算見二以テノ同平方
用之方算算式方程ハ算位ノ
已ニ指サシテモハシクノ記述
甚一精算形ハ算ノ秘門を
分チテモハシクノ記述ハ算位ノ
算算ノ必用ノ法トモハシクノ記述
モハシクノ記述ハ算位ノ
省記也ハ調法也ト大集一物法切ト
ツリテモハシクノ記述ハ算位ノ



此書ハ算見二以テノ同平方
用之方算算式方程ハ算位ノ
已ニ指サシテモハシクノ記述
甚一精算形ハ算ノ秘門を
分チテモハシクノ記述ハ算位ノ
算算ノ必用ノ法トモハシクノ記述
モハシクノ記述ハ算位ノ
省記也ハ調法也ト大集一物法切ト
ツリテモハシクノ記述ハ算位ノ

